The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題　「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
アジア会長主題　「変化をもたらそう」
東日本区理事主題　「未来に向けて今すぐ行動しよう」
あずさ部部長主題　「変わるに挑戦！」
東京西クラブ会長主題　「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2022年12月号
NO　555

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。
新約聖書ヨハネによる福音書１章14節

「イチジクを味わう」

尹相優（弓町本郷教会伝道師）

デパートでイングランド風のイチジク・プディングが目に入ったのは去年の 12 月でした。初めて見るものに私の手はいつの間にかカード支払いをしていました。イングランドでイチジクはクリスマスの食卓に並ぶ代表的な果物だそうです。

地中海沿岸の国々では古くから主食とされたイチジクは色んな食べ方があります。特に私たちが良く接する乾燥イチジクは古代ローマ兵士の戦闘食糧でした。イチジクは私たちと長い付き合いをしているなと思います。

イチジクは 4 月中旬の晩春と 8 月と 10 月の間の真夏に実がなります。私たちが読む聖書は、この実を同じくイチジクと呼びますが、ヘブライ語では区別して呼びます。4 月の初なりのイチジクは「パゲ」、 甘みもほとんど無い小さい実です。しかし、寒い冬を耐えて備蓄した糧がなくなった4月のイスラエル人にとって「パゲ」は空腹を紛らわす大切な果物でした。この時期のイチジクの主人も「パゲ」は自由に食べるようにしました。当時多くの人がこの実を待っていたでしょう。「パゲ」の後にできる本なりのいちじくを「テヘナ」と呼びます。ドライフルーツのイチジクが「テヘナ」です。

ホセア書 9 章 10 節は「いちじくが初めてつけた実のようにお前たちの先祖をわたしは見た」と言います。このイチジクは時期的に「パゲ」です。神様は御言葉を述べ伝え、従う信仰の先達を「パゲ」のように見ました。 冬が過ぎて春が訪れ、人々の空腹を紛らわす「パゲ」と同じ働きを彼らはしました。神様は今も私たちが「パゲ」になるのを待っています。今年の冬、イチジクのデザートと共に聖書の様々なイチジクの比喩を味わうのはいかがでしょうか。

多摩川と合流間近い野川（吉沢橋付近）

WHOウォーク、11 月は 25周年 12 月は野川シリーズ最終回

WHO ウォーキングは、11 月で 1997 年に開始以来、25 周年でした。

12 月は、「野川下りシリーズ」の最終回となります。今年の 4 月、野川の源泉の 1 つ西国分寺から歩き始め、2 か月の夏休みを経て、母なる多摩川との合流点、二子玉川に到着します。

詳しくは、P4 の 11 月報告と、12 月のご案内（予告）とをご覧ください。

クラブ役員

会長	高嶋美知子
副会長	吉田　明弘
書記	本川　悦子
会計	篠原　文恵
担当主事	横山　弥利

11 月 の 記 録				ニ コ ニ コ	5,100 円
在籍者数	12人	メネット	1人	クラブファンド	0 円
（内功労会員）	1人				
出席者数	10人	コメット	一人	ファンド残高	114,715 円
メーキャップ	1人	ビジター	10人	ホテ校ファンド	0 円
出席率	100%	ゲスト	1人	ホテ校残高	26,650 円
内 Zoom 参加	0人	出席者合計	22人	WHO 参加者	28人

12月クリスマス例会

強調テーマ：キリスト教理解、IBC

受　付　神谷　幸男
司　会　河原崎和美

街路樹のイチョウの木の黄葉が一段と美しくなってまいりました。向寒の候となりましたが皆様にはお元気にお過ごしのことと思います。

今月の例会は恒例のクリスマス例会です。キリスト教理解・IBC を想起しながらフランス料理を賞味し交流を深め合いましょう。

日時：12月15日(木)18：00～20：00
会場：ビストロ天下井（あまがい）
杉並区荻窪 5-20-7 吉田ビル 1F
TEL　03-9530-4629
JR・丸の内線荻窪駅南口　徒歩約 5 分
南口仲通り商店街
会費：6,000 円
（メンバーは通常例会費からの補助あり）
担当：C 班（神谷、河原崎、本川、横山）

開会点鐘	吉田明弘副会長
ワイズソング　静唱	一　同
聖句朗読・祈祷	神谷　幸男
会長挨拶とゲストご紹介	副　会　長

晩餐

ヴァイオリン演奏	**本川　悦子**
歌いましょう	一　同
メンバースピーチ	各メンバー
ハッピーバースデイ	
ワイズ報告	各　担　当
YMCA 報告	横山　弥利
閉会点鐘	副　会　長

HAPPY BIRTHDAY
4 日　神谷　雅子　　15 日　吉田　廸子
18 日　村野　絢子

—11月事務会報告—

日時：11 月 24 日（木）
17:00～19:00
会場：東京 YMCA 山手センター
出席者：石井、神谷、河原崎、
篠原、本川、吉田

＜報告事項＞
①11 月活動を確認した。
②11 月通常会計を承認した。
③神谷幸男さんが千葉ウエストクラブの 11 月例会で「東京西クラブの活動について」と題して卓話を行なう。クラブから篠原、本川、神谷メネットが出席する予定。
④後藤あずさ部長のクラブ公式訪問の予定は、後日決定する。

＜協議事項＞例会関係
①12 月のクリスマス例会は、例会日の 15 日、18：00～20：00、荻窪南口・ビストロ天下井（あまがい）で行なう。本川悦子さんのヴァイオリン独奏がある。会の詳細は、例会案内の通り。
②1 月の卓話は、東京 YMCA 山手センターの小畑貴裕館長に「コロナ禍における専門学校」についてお願いした。
③2 月は、TOF、FF、HTW の強調月間とされているが、例会の持ち方については、未定。
④3 月例会は、恒例の東京世田谷クラブとの合同例会となる。本年は当クラブの担当である。メンバーの意向、会場の設備から、リアルで行ないたいが、先方の意向もあり、担当班の神谷幸男さんが打ち合わせる。
⑤国際、区、部に対する負担金、献金については、請求に従い期日までに送金する。このことについて、吉田明弘さんがクラブの考え方をまとめる。
⑥部の定めに従い、2025-2026 年度あずさ部長（2024-2025 年度直前部長）を、輪番制で当クラブから推薦することになっている。クラブ内人事も含めて、協議したが結論がでなかった。
⑦現在、例会（場合によっては事務会でも）マイクを使用しているが、効果があるので、さらに性能の良いマイクをクラブとして購入することを決めた。

在京ワイズ新年会のお知らせ

3 年ぶりに開かれます。
日時：2023 年 1 月 7 日（土）
受付　11：30
礼拝　12：00
ウクライナ支援チャリティーコンサート　12：30
会場：早稲田奉仕園スコットホール
登録費：2,000 円
なお、登録費、礼拝献金等は全てウクライナ支援に用いられます。
アクセス東京メトロ早稲田駅徒歩 5 分

（書記・本川悦子）

11月例会は、7クラブから22人の参加で賑わった

相撲部屋のおかみさん
－11月例会報告－

11月17日（木）ウェルファーム杉並にて例会がもたれた。後藤あずさ部長（富士五湖）が体調不良で欠席されたが、公式訪問予定とあって多くの参加者を迎えた。

卓話は（元富士桜）中村部屋のおかみさん・中澤嗣子さんの「相撲部屋のおかみさんが見て感じた世界」でした。親方欠席で残念でしたが相撲界の内側の話を興味深くお聞きしました。

1年の半分は名古屋場所、大阪場所、九州場所と地方巡業で東京は留守であること、伝統的な師弟関係で成り立つ厳しい世界で1日の生活は6時起床、稽古。掃除・風呂・ちゃんこ・昼寝・部屋掃除・自主トレ・ちゃんこ・自由・10時消灯・11時門限（中村部屋の場合）であった。全て幕下以下の力士が3人一組でちゃんこ番として行い、3段目の上位から幕下の物がちゃんこ長として責任をもつ。兄弟子を見習い繰返し同じ稽古や行動をとり自らのものとする。弟弟子に伝統として伝えていく。ちゃんこ長は会社の中間管理職の立場で影響は大きいといえる。

現在力士は606人43部屋ある。最大の部屋は九重部屋力士27人、最少が錦部屋で力士1人。関取不在は12部屋。十両以上の70人が関取と呼ばれ、給料が出る。

土俵の中では相手に責任をかぶせることが出来ないが、生活面では徹底的に責任を持つように教えていた。中村部屋5訓①自分の事は自分でする②掃除はきれいにする　③時間を守る　④挨拶は大きい声でする　⑤返事は大きい声でする

関取になれる力士は多くはないが、やめた後「力士セカンドキャリア推進協会」に参加し、力士生活で学んだことが介護に活かせる。言葉にしなくても相手の思いを察する。上下関係、見て学ぶことで養われた…といろいろな場で働いている。

一般家庭で育った自分が相撲界のおかみさんをやれたのは、両親がクリスチャンで自由に何でも言える家庭で育ったこと、YMCA のリーダーとして高校生のメンバーと多くの活動をしたことが役立ったと思っている。

卓話の終了後、質問や感想が多く出ました。富士桜関の現役時代の甲府での人気の凄さの紹介もありました。　（村野絢子）

出席者：＜メンバー＞石井、神谷、河原崎、篠原・高嶋・鳥越・本川、村野、横山、吉田、＜メネット＞神谷、＜ゲスト＞中澤嗣子（卓話者）、大輪匡史（東京武蔵野多摩）、小澤公紀・野々垣和宏・野々垣健五（甲府21）、花輪宗命（東京八王子）、藤江喜美子（東京たんぽぽ）、原俊彦・原淑子（富士五湖）、高田一彦・長尾昌男（千葉ウエスト）、＜メイキャップ＞大野（10月事務会）

千葉ウエストクラブ訪問記

どんよりと曇った11月26日（土）13時30分定刻に、すでにお迎えの高田さん、長尾さんお2人がJR東船橋駅に待機されており、早速私たち4人は2台の車に分乗して会場の日本基督教団船橋教会に向かった。東船橋の比較的新しい街を会場の同教会に隣接した信徒館に開会15分前に着いた。既に会場に来られていた既知、初対面のメンバーとあいさつを交わし開会を待った。

千葉ウエストクラブ例会

定刻14：00に高田一彦会長の点鐘で開会、ワイズソング、ワイズの信条、聖書朗読、ゲスト・ビジター紹介、会長報告。会長報告はプリントされた資料によって東日本区役員会報告など詳しく丁寧なものであった。続いて小林和弘担当主事によるYMCA報告と続いた。

卓話は「東京西クラブの活動について」と題して神谷幸男の話。

クラブ設立の目的に触れた後、杉並YMCAの支援活動、杉並YMCA活動終了後の活動、IBC、DBC活動に関してお話しした。千葉ウエストクラブは来年2月開催の東西日本区交流会で西連合DBC締結を考えているとのことでDBC活動については少し詳しく話した。午後の時間帯の会合なので会食はなし。ニコニコ、閉会の辞があって高田会長の閉会点鐘をもって定刻16：00閉会となった。小規模ながらワイズの香り豊かなよい例会であった。

帰路も往路同様高田さん長尾さんの車に分乗してJR船橋駅まで送っていただいた。感謝。

（神谷幸男）

母なる多摩川との再会は、寄り添ってきた崖線との別れ
—WHO12月のご案内—

多摩川の南下によって生まれた野川は、國分寺崖線によって育てられてきました。國分寺崖線は、これからさらに大田区田園調布付近まで続きますが、野川は、二子玉川で多摩川と合流します。いわば、野川の“最終楽章”です。

今回は、農村のイメージを残す地域から、江戸後期の行楽地、明治になって華族、政財界人の別邸のあった岡本、瀬田を歩き、少し遅い錦秋を味わいましょう。

期　日：12月17日（第3土曜日）
コース：小田急線成城学園前駅－＜バス＞－永安寺前－大蔵氷川神社－仙川…野川の合流点－岡本民家園－旧小坂別邸・崖線緑地－静嘉堂文庫庭園－多摩川との合流点（兵庫島付近）－大井町線・田園都市線・二子玉川駅
集合・出発：小田急線成城学園前駅・北口10：00
解散：田園都市線…大井町線・二子玉川　14：30頃
携行品：名札、健康保険証、マスク、弁当、飲料水、雨具、パンフレット「野川マップ」
参加費：300円、初参加の方は名札代200円（必ず着用）

—WHO11月例会の報告—

11月例会は26日。朝、小雨だったためか、参加は28人。

小田急線成城学園前駅から出発するといきな歓声。イチョウ並木が見事な黄金色、落葉とのバランスも良し。碁盤の目のような整然とした町並みを巡りながら、代表的な和風建築、旧猪股邸と外観はスペイン風、米国の生活様式を取り入れた昭和12年建築の旧山田邸館と庭園を見学しました。

ここから、この日一番の難所の不動坂。住宅地と野川沿岸の平坦な低地を結ぶ崖線です。距離は200mほどですが、クルマもあえぎながら上る急坂、腰ヒザに問題のある方には下りはつらいはず。万一途中で立ち往生した場合に備えて、タクシーの迎車も考えていました。幸いなことに何も起こらず、下りました。

山田邸の西側には高低差20mの約2.9㌔の崖線のある樹林、渓谷、池があり、希少な動植物が生息していて、「みつ池緑地」として特別保護地域に指定され、入場制限されています。直前に山田邸の庭園のデッキから東側を見下ろしましたが、今度は、西側を見上げました。

昼食は、先月も立ち寄った、きたみふれあい広場でゆっくり、のんびりとって野川下り。

次大夫堀公園民家園にて

次大夫堀公園と民家園に入りました。公園名は、徳川家康が代官小泉次大夫に命じて15年の歳月を費やして掘削した六郷用水の別名、戦後役割を終えて消えていたものを約650m復元し江戸後期の田園風景を再現したもの。民家園は、区内に残っていた江戸時代の農家の住宅、土蔵、火の見櫓などを移築し、農村風景を再現しています。それは、単に整った展示や解説ではなく、さっきまで人が働いていたように、割りかけの鉈や薪、土塊のついた鍬が無造作に投げ出されています。あたかも、しばらくその場にいると、気軽に草刈り鎌を持って立ち上がりそうな錯覚を持ちます。園前のバス停から、成城に戻りました。

（吉田明弘）

YMCA Today

■ホテル学校では12月5日で2学期授業が終了し、12月7日より国内研修旅行を実施しました。通常はヨーロッパを訪問する海外研修旅行ですが、コロナ禍の今年も関西、九州、沖縄の3コースに分かれて実施。卒業を控える2年生にとって思い出となる研修旅行になりました。

■会員部主催「ソシアス 2022」は会員、職員、学生他51人が参加し11月20日にオンラインで開催されました。川平朝清氏（元NHKアナウンサー・昭和女子大学名誉教授）の「沖縄復帰50年と平和について－ヤングマン＆ヤングウーマンに期待すること－」と題した講演は好評でした。講演後は講演の感想や意見を分かち合う時間を持ちました。

■「YMCA・YWCA 合同祈祷週礼拝」が11月17日に東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの共催で開催され、会場（在日本韓国YMCA）とオンライン参加者合わせて約75人が出席。世界YMCA・世界YWCA両会長からのメッセージや合同祈祷週の祈りが共有され、増田琴牧師（日本基督教団経堂緑岡教会）より「燃えても燃え尽きない」と題してメッセージをいただきました。

■その他「日台YMCA連絡委員会」が台北YMCAを会場に12月7日～9日行われ、「東陽町クリスマスオープンハウス」が東陽町センターにて12月11日に行われました。「ウクライナYMCA支援活動報告会」がオンラインにて12月14日に行われ、ウクライナYMCAによる現地活動報告がありました。

「第17回子育て講演会」は講師に大豆生田啓友氏（玉川大学教育学部教授）を迎え、「いまどきの子育てで大切なこと～幸せ子育てのコツ～」をテーマにオンラインにて1月28日開催予定。

担当主事　横山弥利

☆☆☆インタビュー☆112☆

花輪 宗命さんに聴く

東京八王子クラブ

＊　＊　＊

―東京八王子クラブは凄いですね。「花輪さんにインタビューするので、何か資料を」とメンバーにお願いしたら、翌日、ブリテン20 頁分のコピーをいただきました。現在は大東文化大学の教授をされていますが、その前は、東京都庁におられたのですね。東京外語大学のフランス語科のご出身でしょ。なぜ都庁へ。

「それを指摘されると恥ずかしいのですが、若い頃から何か社会に役立つことをしたいと考え悩んだ結果です。最初は外交官にと思いました。外交用語として、英語の次はフランス語と言われていましたので、これもマスターしようと。でも言葉だけではダメだと気づき、国際的な人間関係や仕事において役に立てるようになりたいと、都立大の大学院で国際法の勉強をして、国際弁護士になろうと夢を見始めました。しかしそれも身の程知らずであることに気づき、身の丈にあった地方公務員として、住民の福祉向上に資する仕事に就きたいと考えて、都庁に就職しました。最初の職場が都税事務所だったため、良い仕事をするには、経済・財政の見識が必要だと思い、仕事の傍ら独学で経済学を勉強し始めました。美濃部都政の頃です。たまたま、職員のためにオックスフォード大学の大学院で経済学を勉強出来る奨学金制度の募集があって、受験したら合格したので2年間休職して留学しました。帰国して、主税局、企画審議室、国際部外事課長、都職員研修課長などの職務に従事、パリ事務所長や八王子青年の家所長も務めました。留学の時、帰国したら復職する、得た見識は仕事に活かす、と誓約書を書いていました」

―山梨県のご出身とか。

「敗戦の翌年、父が満洲鉄道にいたので奉天近くで生まれ、父親の故郷の甲府に戻りました。事実上、甲府生まれの甲府育ちです」

―小学校での好きな科目は。

「好きな科目は社会、体育は苦手で目立たない子でした」

―高校１年の時に、アメリカ留学プログラム（AFS）に応募して２年生で留学したのですね。

「はい。テキサス州ダラスのホストファミリーに受け入れてもらい、高校に入学し、翌年卒業しました。在学中に憧れのケネディー大統領がダラスに来たので、学校が仕立てたバスで演説を聴きに行こうとしていたところに、暗殺されたとの知らせが舞い込み、ショックで卒倒しそうになった記憶があります。実は応募したとき、留学の最後に世界中から留学してきた高校生がホワイトハウスに招かれ、憧れのケネディー大統領から歓迎のスピーチがあると聞いていたのです」

―クラブ入会のきっかけは。

「八王子市の奉仕団体で一緒だったクラブの久保田貞視さんから長く熱心に誘われました」

―お名前から宗教関係のご出身かと思っていましたが。

「後の捏造かもしれませんが、花輪家の家系図の筆頭は、武田信玄の弟で出家した逍遙軒です。私も幼少の頃から毎日仏壇に向かって般若心経を唱えていました。ですから入会を誘われた時には、YMCA の『C』には、抵抗感がありました。山梨英和学園の幼稚園でカナダ人の園長から英語と聖書の手ほどきは受けたのですが」

―奥様は京都のご出身とか。どこで知り合われたのですか。

「私は、若い頃から女性にもてず、仕事に夢中でしたが、もてた弟が、私より先に結婚することになったので、焦った母が出身の京都の親戚筋の女性から家内を見つけてくれました」

―ご一緒にボランティア活動をやられているとか。

「オックスフォードに行った時は、新婚ほやほやでした。世界中から来ていた研究者や学生の配偶者のために、大学の研究者の奥さんたちが、ニューカマーズ・クラブという親睦団体をつくってイギリスの文化や生活、名所旧跡を紹介するといったおもてなしをしてくれました。おかげで家内は、随分学ぶことができ、充実した大学生活を送ることができました。家内は、帰国してからご恩返しのつもりで、八王子国際友好クラブというボランティア団体を同じような経験を持つ友人たちと立ち上げ、留学生、研修や仕事などで八王子に移住してきた外国人住民を、八王子市民として迎え入れる支援活動を始めました。私も、後から加入して、一緒に活動をすることになりました」

―ワイズに加わって良かったと思われることはなんでしょう。

「豊富な経験や高い見識を備えた方が多く、交流して一緒に活動できる幸いです。もっと幅広い範囲、広い年齢層の人達が加わってくるようにしたいですね」

―今年度は、２度目のクラブ会長と共に東西日本区合同委員会の翻訳・通訳グループにも。

「凄い方ばかりで、刺激を受けています。役割を精一杯果たすと共に、良いものをクラブにもちかえり、活かしたいと思います」

―今、やりたい趣味などは。

「若い頃楽しんだピアノの演奏やテニスをもう一度没頭できたらと思います」

―座右の銘はお持ちですか。

「『一切衆生悉有仏性』、『行持恩奉仕』でしょうか」

―有難うございました。（吉田明弘）

思い出を辿って⑫
クリスマスと音楽

村野絢子

最初に思い出すのはビング・クロスビーの歌う「ホワイトクリスマス」、ダニー・ケイの「ジングルベル」どちらもクリスマスシーズンにはどこでも流れている。

名古屋中央教会の聖歌隊では佐々木伸尚さん（大阪出身）と森本潔さん（京都出身）の指導を受けた。2 人の発音が微妙に違うので面白かった。クリスマスの燭火礼拝（キャンドルサーヴィス）の後、車に分乗し数軒の教会員のお宅を回って讃美歌を 2～3 曲歌うキャロリングは寒さに震えながら歌ったこと、もてなして下さった温かい飲み物の幸せな気持ちが忘れられない。

和泉教会の聖歌隊は若い中山摂さんに指導を受けた。渡辺真理さん率いる古楽器グループとコラボして演奏したこともあった。最近はキャンドルサービスの終了後、集まった全員で「ハレルヤコーラス」を歌うのが慣例になっている。

私は仕事を辞めてから、以前から入りたかった女声合唱の「上馬ハーモニー」と夫の先輩たちで作っていた混声合唱の「クッカバラ会」に入会した。上馬ハーモニーは上馬の地で「ご近所に歌声を」と中山新子さんが 1968 年に立ち上げた会で、松岡さん宅が練習会場であった。松岡玲子さんと長岡輝子さんは、賑やかなクリスマスの風潮の中で本当のクリスマスを知らせたいと YWCA でクリスマスページェントを企画し、松岡玲子さんの脚本・演出で、その演技（劇団）と朗読（長岡輝子）合唱（上馬ハーモニー）が担当しました。クッカバラ会は、大学の仲間が、仲間の関さんが横浜の都筑讃美教会を建て、牧師になった時から始まる。毎年教会のクリスマス演奏会で歌った。近くの介護施設でも、韓国の釜山の施設を数回お訪ねし歌った。今はメンバーが減り解散した。

ワイズメンであることの誇り

神谷幸男

今年 2 月 24 日に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻は遠く離れた日本に住む私たちも大きな衝撃を覚えた。戦火を避けて国内だけでなく国外に避難した人たちの数は夥しいと聞く。国内避難民 625 万人、国外避難民 1500 万人以上とか。

ウクライナばかりでなくミャンマー、ソマリア、アフガニスタン等戦火による難民や人権抑圧などによる身の安全、毎日の生活支援、医療支援を切実に求めている社会的に極めて弱い立場におかされている人たちがいることは、報道によれば枚挙に暇がない（ひょっとするとそう遠くない未来の日本だって危ないものだ）。

これらの現実を他人事としてではなく、人道的立場に立って何か役立つ働きをしたいと考えている人、自らの問題でもあると認識してその支援に携わろうと考えている人も数限りなくいるだろう。そしてじっとしておられず行動する人もいる。これらの支援活動を行っている NGO に参加して、あるいは個人で現場で活動している人たちだ。

「できるようになってから、では永遠に解決しない」内戦、飢饉にあえぐ遠い国への使命感
ウクライナ危機で支援する日本の NGO ら　必死の医療提供と、必要な周辺国への支援
「伝わりにくい平和」をどうする－コミュニケーションから考える戦争と平和

なる文言を目にすると心が動く。

さて、自分自身はどうだろう。思っていても役立てられるスキルが無い、体力もない。では何もできないのか。できなければできる人にやってもらえばいいと考える。

多くの NGO がこれら支援・救援活動を行っている。YMCA もその一つだ。ワイズメンズクラブは YMCA を支援している。だからワイズメンズクラブの役割をしっかり実行していれば難民支援・救済活動のほんの一部に関わっていると考え、ワイズメンであることに誇りを覚えるのである。YMCA の会員であることも同様である。さらに、いくつかの NGO に関わっていることでも同様である。

編　集　後　記

あれよあれよという間に今年も最後の月となってしまいました。しかしこれでいいのです。月日の流れという自然に流されずに自覚的に生きていけばいいのですから。

「クリスマスは歌うこと」とキリスト教強調国際事業主任カール・ハーツ・イェンセンさんが言っています(国際会長ニュース 12 月号日本語版)。同感です。若いころのことを思い出しました。また、環境が整えれば大声でクリスマスの讃美歌やキャロルを歌い尽くすクリスマス例会もありかなと。

今月号は巻頭言に弓町本郷教会の伝道師の尹相優先生にクリスマスメッセージを書いていただきました。一味違っているところを噛みしめたいと思います。

原稿を寄せてくださった方々に感謝します。早々にいただいたにも関わらず少々発行が遅れまして申し訳ありませんでした。

(S.K)